第 61 回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会

9 月 30 日、10 月 1 日、札幌市内で標記大会が開催され、宮母連から 21 名参加しました。1 日目の行政説明では「個々の事業は各市町村が実施主体となるので、個別に確認して欲しい」との話がありました。研究討議では 3 討議テーマに基づき、各母連の発表者から意見発表を行いました。助言者から各種福祉制度の紹介や活用について助言があり、母子会のリーダーの重要性と行政との連携の大切さを認識させられました。また積極的に情報を取りに行く姿勢も必要であると痛感しました。

2 日目は「母として、女性として生きること」という演題で札幌大学客員教授中田美智子氏の講演がありました。中田氏は元アナウンサーですが、仕事では「なんでも挑戦した。チャンスは前髪をつかめ。時機をのがすな。チャンスは向こうからやって来る。」ということを実践してきたとのことです。また子育ては「人生に無駄なものは何一つない。出すぎる杭は打たれない、出すぎた杭は倒れる。周りから支えてもらう必要がある。自分から動く、しかし他人には期待しない。次の世代につなごう。」という考えで行ってきたとのことで、我々の今後の生き方に勇気と示唆を与えてくれるお話でした。

母子部長会議報告では「会員の増に近道はない。現状は厳しいが地道な活動を継続しよう」との報告がなされました。最後に大会宣言・決議を採択して 2 日間の研修大会を締めくくりました。